

一般社団法人 日本創傷外科学会

## 専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第 12 回専門医試験

問題 1) 静脈うっ滞性潰瘍について誤りはどれか。

1. 男性に多い
2. 弁不全は家族内発生が多い
3. リウマチ患者は合併しやすい
4. 下腿内側の大伏在系に生じやすい
5. 40 mmHg での圧迫療法が有効である

問題 2) 虚血性下肢潰瘍について正しいのはどれか。

1. 足趾に発症する
2. 圧迫療法は有効である
3. 運動療法は無効である
4. 透析患者の 10%が発症する
5. 切断後の 5 年生存率は 80%以上である

問題 3) 創部のバイオフィームについて誤りはどれか。

1. 界面に形成される微生物構造体を指す
2. 入院期間延長や院内感染の原因となる
3. バイオフィームは 72 時間で再形成される
4. 情報伝達物質やバイオサーファクタントを含む
5. メンテナンスデブリードマンは再形成抑制に効果がある

問題 4) 眼窩底骨折を受傷された。緊急での整復手術が必要であると判断する理由の 1 つとなるのはどれか。

1. 界面に形成される微生物構造体を指す
2. 入院期間延長や院内感染の原因となる
3. バイオフィームは 72 時間で再形成される
4. 情報伝達物質やバイオサーファクタントを含む
5. メンテナンスデブリードマンは再形成抑制に効果がある

問題 5) 頬骨弓骨折の整復術時に、頬骨弓上縁 2 cm の位置で皮膚を切開した。頬骨弓下に鉗子を進めるのに、適切なアプローチはどれか。

1. 側頭骨直上
2. 浅側頭筋膜上
3. 深側頭筋膜下
4. 真皮直下の皮下脂肪層内
5. 浅側頭筋膜と深側頭筋膜間

問題 6) LeFort I 型骨折の整復手術で、有用な器具はどれか。

1. ロー鉗子
2. ワルシャム鉗子
3. ネーザルエアウェイ
4. ディングマン開口器
5. 顔面神経刺激装置

問題 7) W 形成術について正しいのはどれか。

1. 線状拘縮には効果がない
2. 凸面の癒痕によい適用となる
3. 正常皮膚の切除量は Z 形成術よりも少ない
4. 創の平行方向の延長率が Z 形成よりも大きい
5. アコーディオン効果による癒痕予防効果はない

問題 8) ケロイドと肥厚性癒痕について誤りはどれか。

1. 両者とも疼痛や搔痒を伴うことがある
2. 肥厚性癒痕はしばしば癒痕拘縮を伴う
3. ケロイドは周囲健常皮膚に拡大する傾向がある
4. ケロイドと肥厚性癒痕は組織学的に区別可能である
5. ケロイド好発部位は胸骨部、肩関節部、恥骨部などである

問題 9) ケロイドの電子線療法について誤りはどれか。

1. ケロイドの再発率を下げる
2. 総線量は 10～20Gy が一般的である
3. 設定により体表面近くに線量を集中できる
4. 1 回の照射量は胸部 CT の被爆線量より多い
5. 電子線照射後にケロイドが再発した場合は追加照射を行う

問題 10) 一般病院での褥瘡保有部位として仙骨部に次ぐ好発部位はどれか。

1. 尾骨部
2. 腸骨部
3. 坐骨部
4. 踵骨部
5. 大転子部

問題 11) 褥瘡発生の危険因子にあてはまらないものはどれか。

1. 発汗
2. 肥満
3. 失禁
4. 関節拘縮
5. 病的骨突出

問題 12) 深部損傷褥瘡 (DTI) について正しいのはどれか。

1. 局所熱感は DTI を疑う所見である
2. 表皮剥離があれば DTI を除外する
3. 局所の泥のような浮遊感は DTI を疑う
4. 指で局所を圧迫して白く消退する発赤は DTI を疑う
5. 超音波診断装置による画像診断で DTI の判断は困難である

問題 13) Degloving injury について誤りはどれか。

1. 筋膜上での剥離が主である
2. 末梢側を茎とした剥離創を呈する
3. 指輪損傷では血管は損傷されない
4. 重傷例では骨や腱損傷も治療対象となる
5. 剥離された皮弁をもとに戻すだけでは不十分である

問題 14) 末梢神経損傷について正しいのはどれか。

1. axonotmesis は手術が必要となる
2. neurapraxia は保存的治療が行われる
3. neurotmesis は軸索に変性のない状態を示す
4. 神経束縫合より神経上膜縫合の方が良好な結果が得られる
5. 二次縫合は神経の変性範囲が明らかでないため縫合が不確実となる

問題 15) 皮弁と栄養血管の正しい組み合わせはどれか。

1. latissimus dorsi flap . . . lateral thoracic artery
2. groin flap . . . superficial circumflex iliac artery
3. pectoralis major flap . . . thoracodorsal artery
4. rectus abdominis flap . . . deep circumflex iliac artery
5. transverse lumbosacral back flap . . . superior gluteal artery